



2017年7月期上期 決算説明会資料



当社は平成28年度横浜みらい企業に認定されました。

2017年3月16日

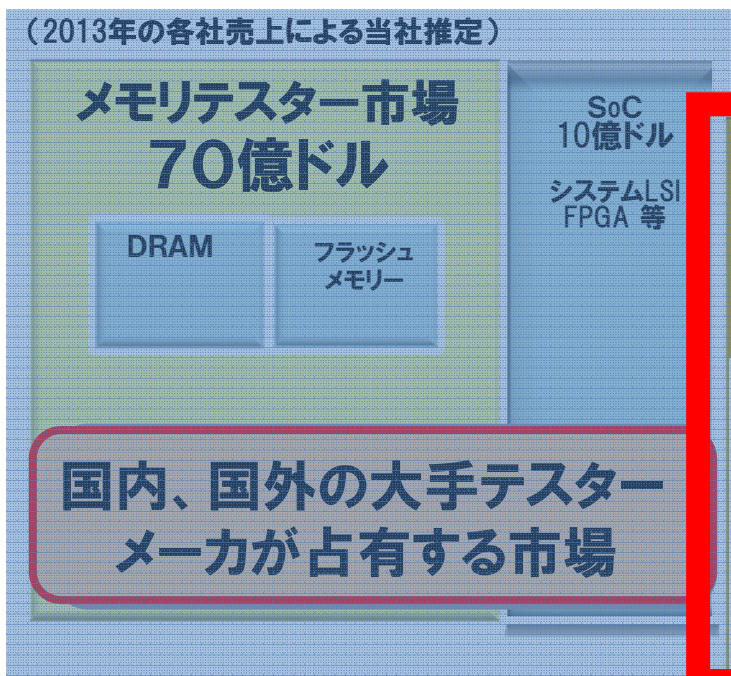
アジェンダ

- ◆ 当社の既存事業領域とポジション
- ◆ 2017年度上期 決算
- ◆ 新規事業計画

当社の既存事業領域とポジション

半導体検査市場と当社の事業領域

•新規事業の開始



液晶有機ELディスプ
レイアレイ検査装置

CCD/CMOS
イメージセンサー

液晶ドライバー検査装置

•既存事業

当社の事業領域

当社の業界におけるポジション(1/3)

– 独自の検査技術を20年以上にわたり開発

LCDドライバIC検査 (今期最も注力するエリア)

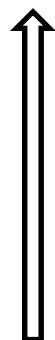
(スマートフォンやテレビなど液晶ディスプレイを駆動するためのICです)

- 研究開発 ➡ 量産導入へ
- ➡ 今後、約130億円の市場シェア3%から10%以上を目指す
 - ➡ 課題:マーケット・ニーズに対しての開発遅れだが、今期中解消

市場規模予想出展:富士キメラ総研

当社の業界におけるポジション(2/3)

コストパフォーマンス



2、3年後

ウインテスト
WTS-577
バージョンアップI/Oで
高速化

二桁シェアを目指す

圧倒的シェアを背景にハイ・エンド機を投入したが、

世界最大手A社

現在:納入ベースでシェア 数%

Y社
撤退

一時はA社とY社でシェアを二分していたが、完全撤退した。

ウインテスト
WTS-577
I/Oピン1.0Gbps

ウインテスト
WTS-577
I/Oピン250MHz

Ytek社
新規開発
実績

T社
設計年度2005年

C社
新規開発
実績 ZERO

市場規模:

2016年 130億円
スマホ、液晶テレビ市場と共に今後伸びると市場である

→ 装置性能、実績

当社の業界におけるポジション(3/3)

– 独自の検査技術を20年以上にわたり開発

イメージセンサー

得意分野： ハイ・エンドの一眼レフ、衛星用センサー市場維持

課題： 複眼化 (iPhone7 Plus等) するスマホ、ゲーム用センサーなどの市場開拓

液晶・有機ELディスプレイ検査

世界の製造装置マーケットは、中国の旺盛な設備投資で大幅に伸長

課題： アレイテスト分野で中国の開発・販売・業務提携先を開拓

2017年7月期 環境見通し

● 国内半導体、液晶メーカー統廃合が続く、中国は、設備投資活況続く

外部環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カメラ スマートフォン用イメージセンサーは、高画素化と複眼化で量の拡大中、コンパクト、一眼レフ出荷台数減は続く カメラ大手4社、カメラ販売ふるわず。国内外のカメラ工場閉鎖もあった ・台湾、中国 17年以降も新興市場のパネル・スマートフォン需要増加、有機ELパネルの製造装置導入が進みアレイ検査引合いも復活 LCDドライバの生産はTV向けも含めて上昇傾向 						
	個別環境	<table border="1"> <tr> <td>イメージセンサー</td> <td>◆スマートフォン、監視向け、車載用で顕著に伸びるが、デジカメ用は激減中</td> </tr> <tr> <td>液晶有機ELディスプレイ</td> <td>◆海外、有機ELで新たな需要が発生、歩留まり改善にアレイ検査の引合い。</td> </tr> <tr> <td>液晶ドライバーIC</td> <td>◆中国国内は上位機種買替え需要発生、引続き途上国(インドなど)向けスマートフォン、TV向け数量増加</td> </tr> </table>	イメージセンサー	◆スマートフォン、監視向け、車載用で顕著に伸びるが、デジカメ用は激減中	液晶有機ELディスプレイ	◆海外、有機ELで新たな需要が発生、歩留まり改善にアレイ検査の引合い。	液晶ドライバーIC
イメージセンサー	◆スマートフォン、監視向け、車載用で顕著に伸びるが、デジカメ用は激減中						
液晶有機ELディスプレイ	◆海外、有機ELで新たな需要が発生、歩留まり改善にアレイ検査の引合い。						
液晶ドライバーIC	◆中国国内は上位機種買替え需要発生、引続き途上国(インドなど)向けスマートフォン、TV向け数量増加						
<p>■ 上期の顧客仕様変更開発遅れが響き、受注に半年のズレ発生も下期に向け挽回中</p>							

スマート・フォンの市場予想の紹介

2017年の年間出荷台数 → 15億3480万台 (+4.2%増)
2018年 +4.4%増

*IDCの公表資料(17年3月1日)世界スマートフォン市場より

2017年のスマホの台数換算で6446万台でこれを、
イメージセンサーとLCDドライバICに換算すると

イメージセンサ: +1億9338万个(3個/台)

LCDドライバIC: +3億8676万个(6個換算/台)

しかし、見えない市場予想、
トランプ大統領の政策、
Appleの新型スマホiPhone8(市場にインパクトは?)
テレビ、ゲーム機の伸長、

当社は、前年の-10%~+10%の読めない市場との判断

既存事業戦略

既存ビジネス

◆国内

- －ハイエンドのイメージセンサ分野のシェア維持

◆海外マーケット戦略

- －LCDドライバIC、更にイメージセンサ検査装置分野を開拓
- －中国方面はトップ直接営業により大手顧客を開拓中
- －デザインハウスとテストハウスの新規開拓を継続
- －中国有力企業との協業も視野に入れ、有機ELのアレイテストのマーケットを開拓

2017年7月期上期決算

2017年7月期上期 決算ハイライト

売上・利益とも前年同期を下回る

【要因】

- ①既存顧客からの検査機能の高度化対応に開発時間短縮の対策をとったものの、想定外の時間を要し受注、売上がずれ込み
- ②世界経済の先行き不透明を懸念して、設備投資に慎重

自己資本比率は91.7%と高水準維持

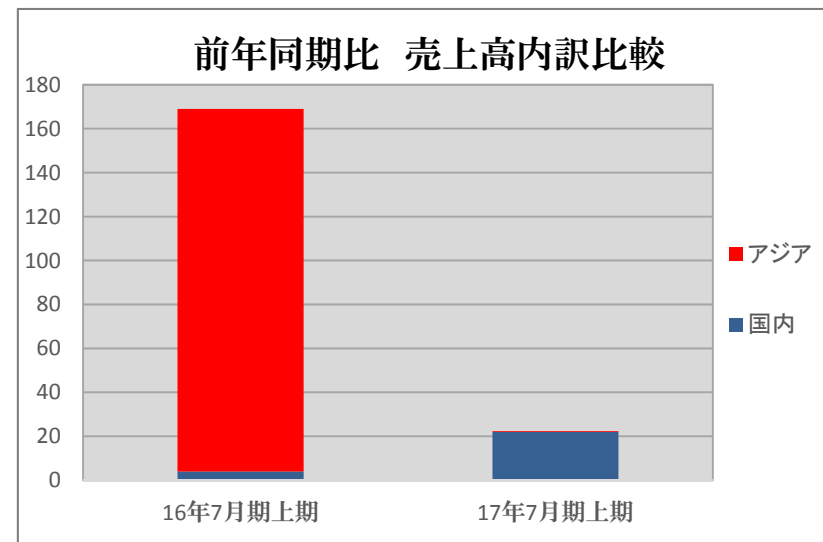
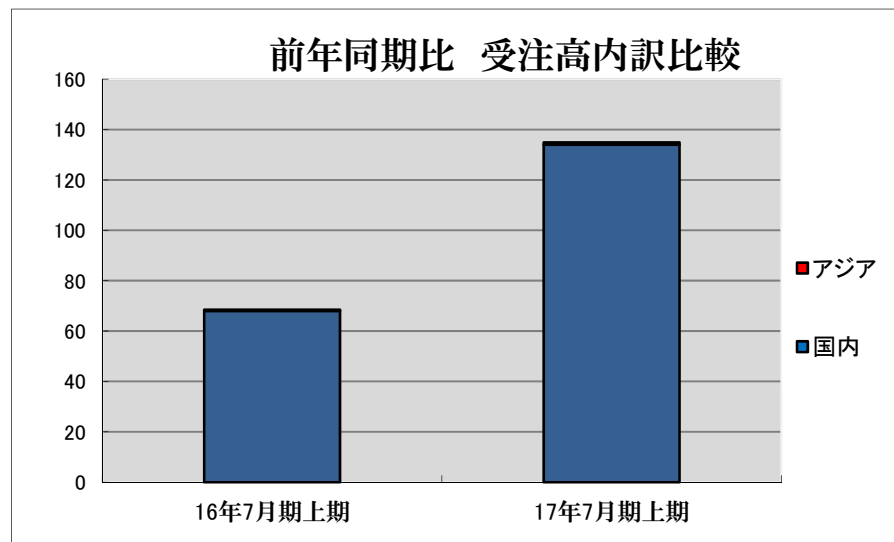
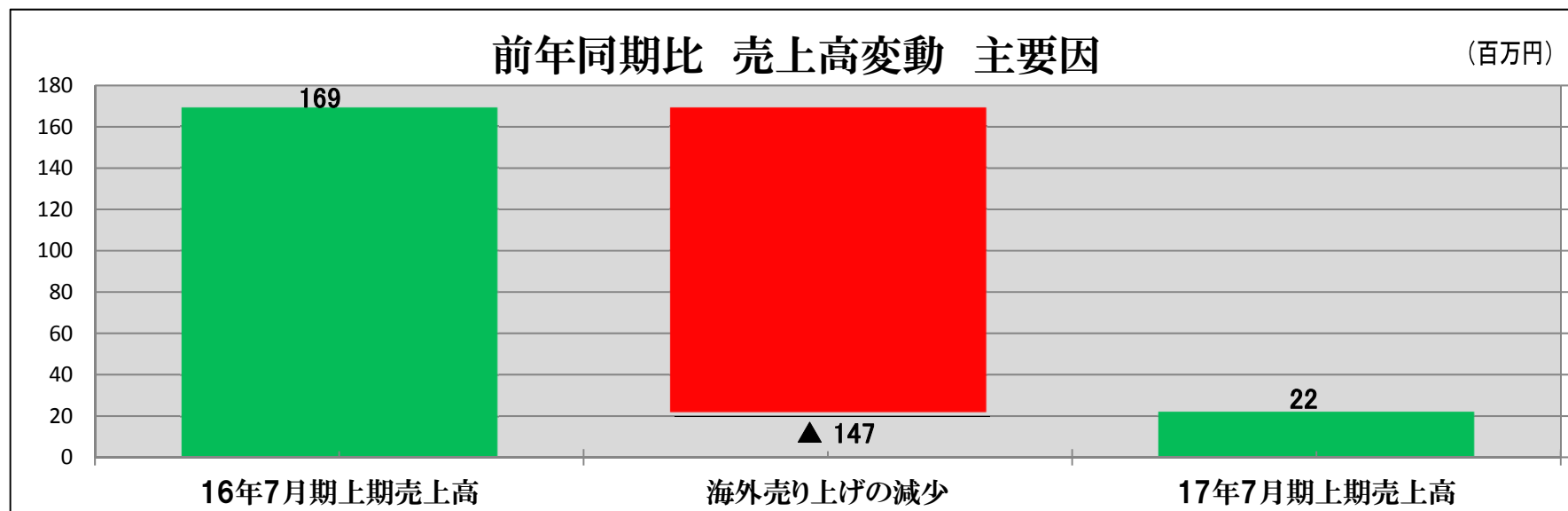
- ☞ 財務基盤安定化のため、新株予約権発行での増資により資本の充実を図っており、自己資本比率は91.7%
- ☞ 現金預金残は10億円弱を確保できており、今後の新規事業展開のための必要資金を確保

2017年7月期上期 決算サマリ

(百万円)

	16/上期	17/ 上期	増減額	増減率	主な増減理由
売上高	169	22	△147	△86.8%	装置の検査機能高度化の開発が完了せず、見込んでた売上がずれ込んでいるため、低調な売上
売上総利益	57	7	△49	△86.3%	売上減少による利益減少
売上総利益率	34.1%	35.4%	—	—	
販管費	155	145	△9	△6.3%	営業経費の削減、試験研究費減で減少
営業利益	△ 97	△ 137	△40	—	経費削減により利益減少幅を圧縮
経常利益	△ 100	△ 134	△34	—	経費削減、為替差益より利益減少幅を圧縮
当期純利益	△ 100	△ 132	△31	—	新株予約権戻入益を計上

売上高の変動分析

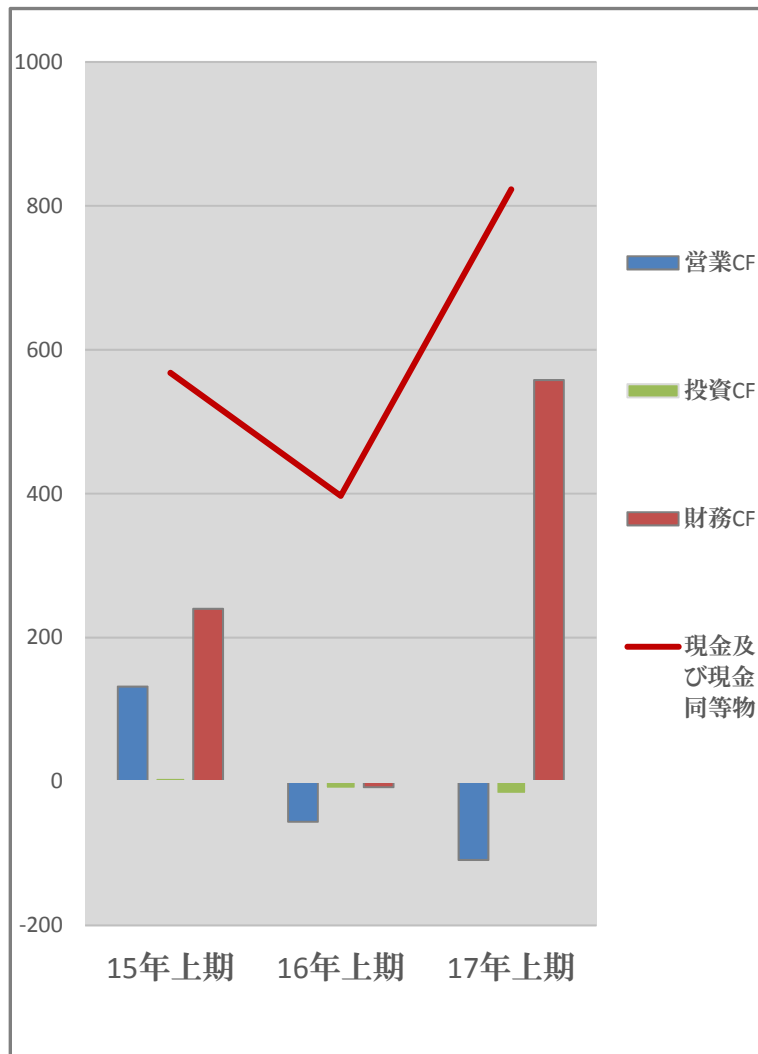


2017年7月期上期 B/S サマリ

(百万円)

		16/7月期末	17/上期末	増減額	主な増減理由
資産内訳	現金及び預金	487	923	435	税前純損失131百万円計上したが、増資で567百万円増加
	受取手形及び売掛金	17	3	△ 13	売上低調
	仕掛品	139	151	11	装置部材を仕入れ増
	その他流動資産	48	35	△ 13	前渡金及び短期貸付金減少
	固定資産	41	68	26	
資産合計		734	1,181	446	増資により増加
負債・純資産内訳	買掛金	0.2	0.03	△ 0.1	
	1年以内返済長期借入	18	18	0	約定返済分
	その他流動負債	28	48	20	保守サポート契約で増加
	固定負債	37	29	△ 8	約定返済で減少
	純資産	650	1,084	434	純損失計上で減少したが増資で増加
負債・純資産合計		734	1,181	446	
自己資本比率		86.8%	91.7%	4.9%	高い比率を維持

2017年7月期上期 CF計算書サマリ



	16/上期	17/上期
営業CF	△56	△109
投資CF	△10	△17
財務CF	△8	558
現金・現金同等物	* 397	* 823

キャッシュ・フロー推移

・営業CF

税前純損失	△131
前受金増	14
売上債権減	13
たな卸資産増	△11
前渡金減	5

・投資CF

投資有価証券取得	△21
----------	-----

・財務CF

新株予約権行使	567
長期借入金返済	△9

* 上記現金・現金同等物には定期預金1億円を含んでいません

2017年7月期 通期業績予想

当社の2017年業績予想数値につきましては、
今期予定しているM&A及び新規事業展開に向け
協議中であるため未定の要因が多く、
見通しが立ち次第、改めて通期業績予想値をお知らせします。

新規事業計画

新規事業成長戦略イメージ

成長戦略実現に向けて
M&Aを積極的に推進

成長分野へ新規参入

既存事業

培った技術を応用し成長分
野へ新規参入

IoT

ロボット

電気
自動車

平成28年7月、新たな成長市場への新規
参入に向け、8億円の資金調達済み

IoTを当社の新事業戦略の中核に置く

エネルギー、エンターテイメント、EV、福祉、医療等

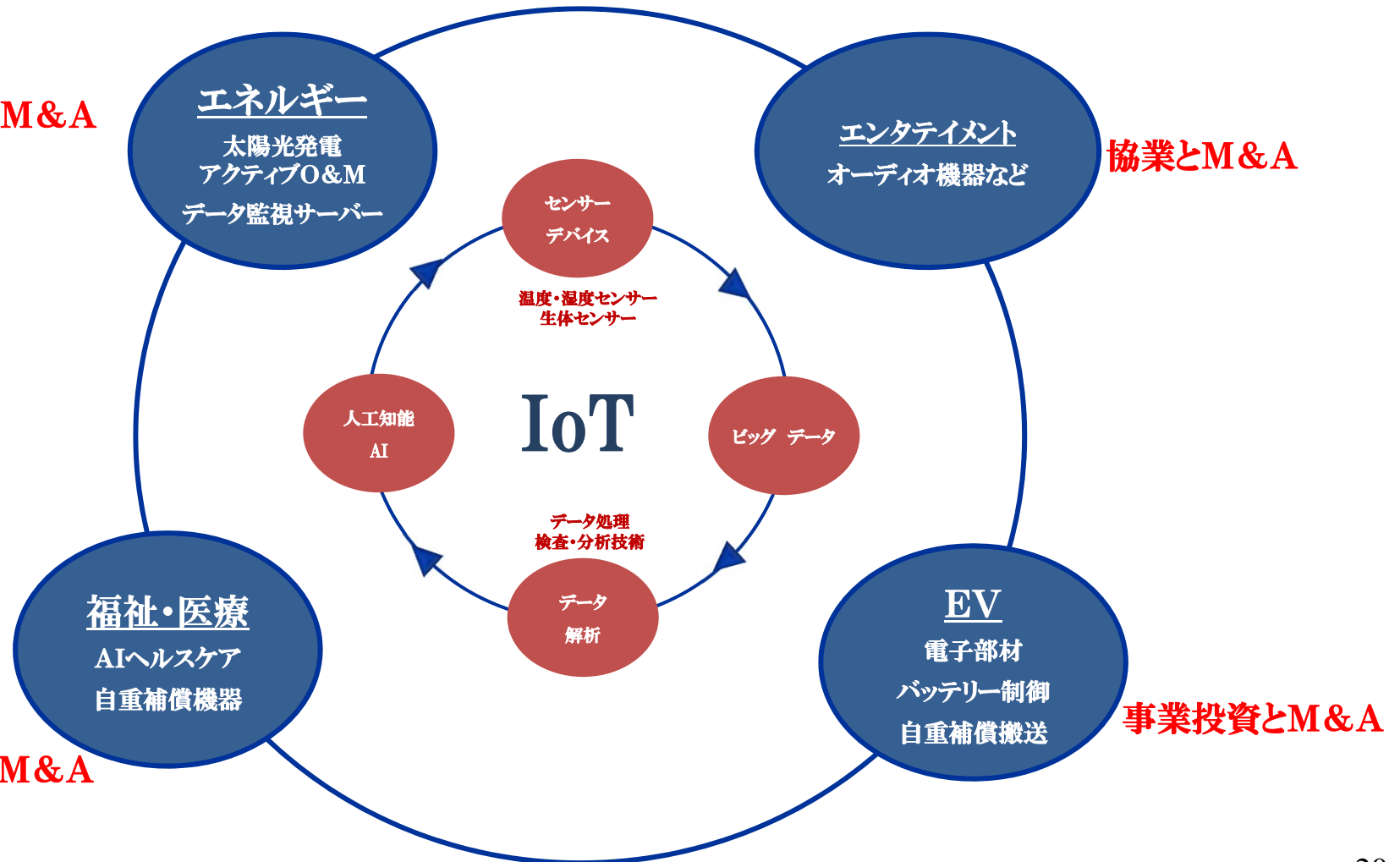
-ビジネスの各分野に活用できるIoTサービスを展開

研究投資とM&A

協業とM&A

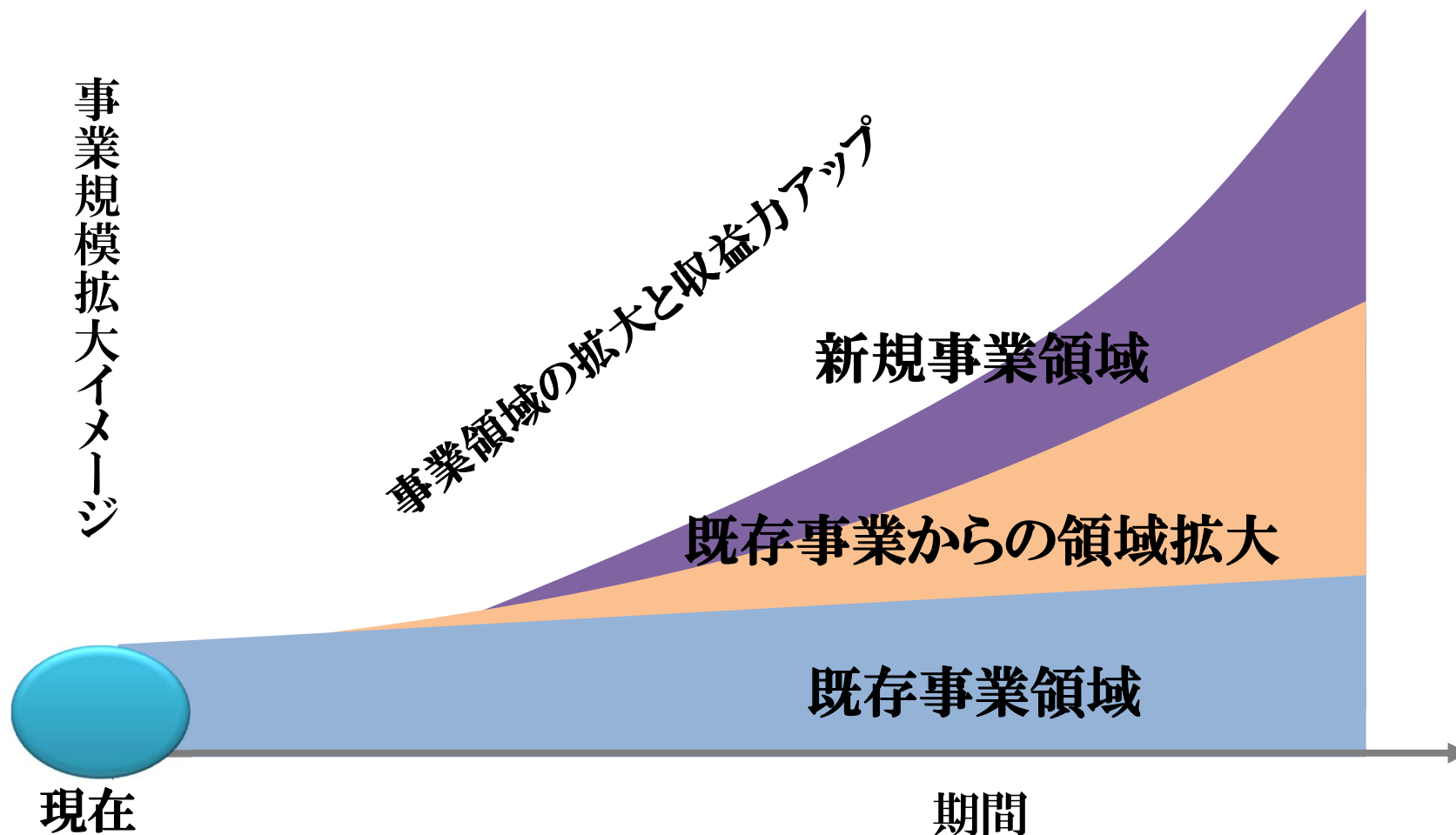
事業投資とM&A

事業投資とM&A



事業展開イメージ詳細

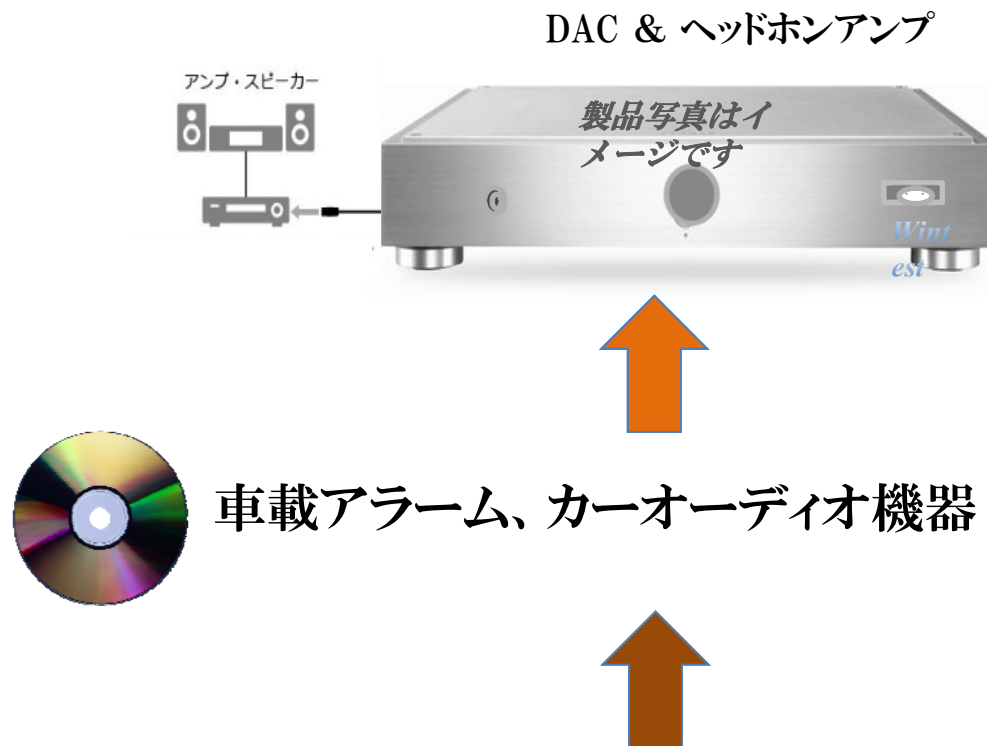
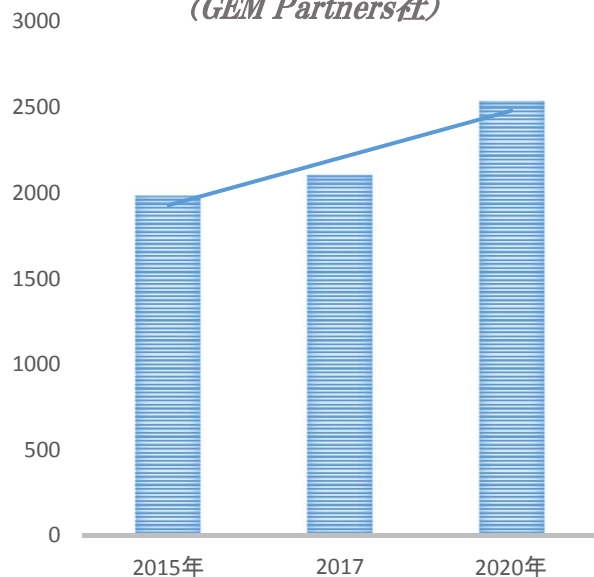
高度な半導体検査技術、画像処理技術、高精度センサ技術を応用し、
新分野の開拓、事業領域の拡充、成長分野へ新規事業展開



既存技術からの製品展開

2017年2100億円規模市場となるオーディオ製品へ進出を計画

単位億
AUDIO関連市場規模
推移予測
(GEM Partners社)



産業用の検査技術を生かし製品を開発

免責事項

- 本資料に記載された意見、予測やビジョンなどは資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。
- 本資料の内容は事前の通知なく変更されることがあります。
また、本資料に記載される業界、市場動向又は経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成したものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。
- 様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることを御承知おき下さい。
- この将来数値に全面的に依拠して投資判断を行うことは差し控えていただきますようお願い申し上げます。

ウインテスト株式会社

TEL：045-317-7888